

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 ソニービジネスソリューション株式会社 御名前 佐藤 哲也 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 若年層がなにかの“きっかけ”になる万博であってほしい期待
(大阪府や内閣府、新聞社、テレビ局、各企業などの意識調査と私見による)
 - ・万博に興味がある年齢層に大きな隔たりがある(と感じている)
 - ・自分の周囲で万博に情熱的である人は、40代から50代以上が多い(気がする)
 - ・大きなアミューズメントやテーマパーク的なお祭りと思われがち(とよく聞く)
 - ・私自身、幼少期の万博における原体験がきっかけで人生の指針が決まった一人
 - ・若年層にとって万博が将来に向けてなにか1ミリでも動き出す“きっかけ”に。

- 幅広い世代が活躍のチャンスとなる期待
 - ・上記の年齢問題や、国際的イベント、かつ大規模のため、展示側も「失敗できない」
 - ・ゆえに、経験豊富な人材、つまり大御所を重用しがちな傾向にある
 - ・一番理解しやすいのが、プロデューサーやクリエイターという職種など
 - ・しかし、新進気鋭の若手がチャンスを掴んできた場でもあるのは事実である
 - ・若年層、中年層、ベテランなど様々な層が活躍する、またはそのチャンスを与えるべき

- 組織、団体、国家など既存フレームワークを超えた取り組みへの期待
 - ・理念や実情を鑑みて、各企業や各国家単位での出展は然りで、決して悪ではない
 - ・しかし“万博のあり方”は、常に変化を要求され、かつ変遷し続けている
 - ・組織や団体、ひいては国家の枠を超えた取り組みがあるべき
 - ・実際、私も共創をする目的とした部署に所属し、難しい実情の反面イノベーションはある
 - ・極端な話、競合企業が手を取り合い、新しい課題解決をする場でもいいのでは
 - ・2025年において“共創”という言葉自体が存続しているか不明だが意識すべき概念
 - ・同様に、国内において関西以外の各地域のフレームワークをいかに超えるか

- 明確な成果への期待
 - ・昨今は万博の定量的な成果にフォーカスされがち。入場者数、経済効果、インフラ整備等々
 - ・「いのち輝く未来社会のデザイン」の本質的かつ定性的な大きな影響を及ぼす目標を望む
 - ・極端な例で、課題解決に向けた宣言や協定、国際条約締結までの本気度があっても良いのでは
 - ・また社会課題に対しての解が、閉会后いかに活かされていくかを定期的に観察できる仕組み

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 前回万博での課題提案の結果、何が変わりどう進歩したか。その上で未来をどう考えるか
- 会場内設備だけに頼らないコンテンツ、つまりどこからでも参加できる等
- 各分野とも参加者をはじめとした知恵の集結によって、開催中も開催後も進化するもの
- 日本独特の制限から生まれるイノベーションを信じたい面もあるので、コンテンツに関しても、つまらないものにならない程度に、普段以上に展示側にルールや規制を設けても良いのでは

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 待ち時間に関しては、過去事例より最難関課題の一つの認識があります。予約システム、混雑予測、Maas などの見識を日本の産業界に限らず世界に広く呼びかけ、万博が社会基盤システムの実験場または成果発表の場のひとつであってほしい。多くの入場者数を獲得しつつも、行列が発生しない万博というものを見てみたい。SDGs の概念や社会問題解決にも大きく貢献する技術となるはず。
- 建造物に関しては、以前から指摘のあるように、見栄えはもちろん、徹底的に利便性及び撤去や可搬性を重視したものであるべき。ただ、過去のお約束どおり、1. 解体せずにそのまま利用し続ける、2. 解体容易な仮設性、3. 移設前提、4. 無駄のない資材の再利用は当然として、それ以外のもっと新しい価値創造はできないものか。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

以上